

量子技術イノベーション戦略の戦略見直し検討WG (第7回)

～国際連携～

2022年1月26日

量子技術による新産業創出協議会
実行委員会 委員長 島田太郎

1. 量子技術をめぐる諸外国の動向
2. Q-STARにおける国際連携の活動状況
 - ・海外団体とのワークショップ
3. 目指す方向性

量子技術をめぐる諸外国の動向 グローバルでの産業化コンソーシアム立上げ状況

米国は既に3年前に設立、現在の運営にはスタートアップやベンチャー代表も参加



QED-C (Quantum Economic Development Consortium)

技術、ユースケース。政策・法整備・標準化、人材育成 など 6部会
(会員 170)

<QED-C Steering Committee >
SRI, Boeing, Cold Quanta,
QC Ware, Zapata Computing, DOE,
IBM, Google, Qubitekk, NIST

※青字下線 = スタートアップ、ベンチャー



QuIC (European Quantum Industry Consortium)

技術、ユースケース。政策・法整備・標準化、人材育成 など 9部会
(会員 約 130)



未来量子融合フォーラム

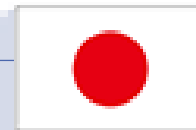
量子（通信、コンピューティング、センサ）の国際標準化研究と共同PJ、ユースケースの事業化モデル発掘、人材育成



QUTAC

(Quantum Technology & Application Consortium)

量子コンピューティング、アプリ開発と実装
(創立会員 10)



Q-STAR

9/1設立
(創立会員 24)



UKQuantum

※9/20設立/TBD
(創立会員 10)

2018年9月

2021年4月

2021年6月

2021年9月

Q-STAR調べ

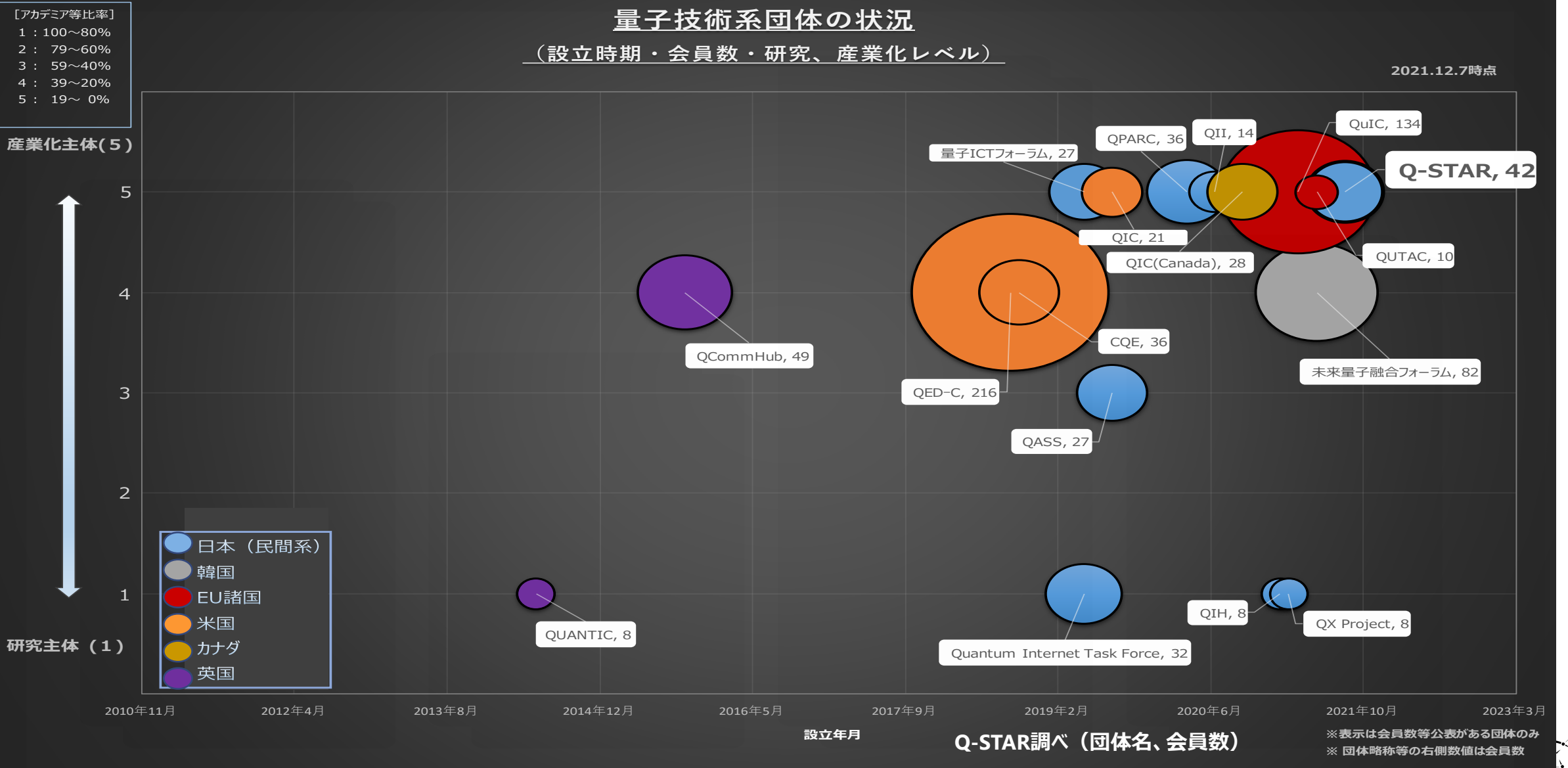
量子関連団体の傾向

世界的に産業化を意識した量子関連団体の設立が顕著

量子技術系団体の状況

(設立時期・会員数・研究、産業化レベル)

2021.12.7時点



目次

1. 量子技術をめぐる諸外国の動向

2. Q-STARにおける国際連携の活動状況

- ・海外団体とのワークショップ

3. 目指す方向性

2. Q-STARにおける国際連携の活動概況 海外団体とのワークショップ

海外団体とのワークショップ開催日程

1. 独QUTAC(Quantum Technology & Application Consortium)とのワークショップ
 - 日時：11月30日(火) 日本時間16-18時 (2H)
 - QUTAC側出席者：6社
 - Q-STAR側出席者：7社
 - アジェンダ：出席者紹介、コレボレーションについてのイントロダクトリーディスカッション
 - 会議形態：Webexによるオンライン会議
2. 米QED-C(The Quantum Economic Development Consortium) とのワークショップ
 - 日時：12月15日(水) 日本時間8-10時 (2H)
 - QED-C側出席者：13社16名
 - Q-STAR側出席者：7社23名
 - アジェンダ：両協議会からの活動紹介 (各WG・部会からプレゼン、コレボレーションについてのディスカッション)
 - 会議形態：Teamsによるオンライン会議
3. 欧州QuIC(European Quantum Industry Consortium)とのワークショップ
 - 日時：22年2月8日 (火) 日本時間17:15-19:15(2H)
 - アジェンダ：両協議会からの活動紹介 (各WG・部会からプレゼン、コレボレーションについてのディスカッション)
 - 会議形態：Teamsによるオンライン会議

目次

1. 量子技術をめぐる諸外国の動向

2. Q-STARにおける国際連携の活動状況
・海外団体とのワークショップ

3. 目指す方向性

目指す方向性

国・地域・規模・業界を超えて、あらゆるリソースを活用
生活の基盤となる、量子産業への実装



User + supplier + Servicer が協力しあらゆる方面で産業化

Next 量子戦略への寄与、具現化を目指す

END

